



## 2. 伝染しない感染症

### A) 肺炎球菌による肺炎

これは、口や鼻などに共生している肺炎球菌を気管支から肺へ吸い込み、それを上手に咳で吐き出すことができなかった結果、肺内で菌が増殖し、炎症を起こしたもので、常在菌からの発病です。

風邪をこじらせると、次のように肺炎が起こります。風邪で鼻の分泌物が増えると、鼻からノドへひっきりなしに垂れ、気管に何度も鼻汁を吸い込みます。繰り返しセキをしても、この鼻汁を排出することができないと、菌を含んだ分泌物が肺内に定着し、含まれる肺炎球菌が増殖し、肺炎になります。

鼻やノドなどの上気道に定住している肺炎球菌は比較的毒性が高く、肺炎を起こしやすいため、予防接種でこれらの菌に対する抗体をつくると、上気道に定住する毒性の高い肺炎球菌が減り、病気を起こしにくい別のおとなしい細菌が代わって生えてきます。この結果、ワクチンを接種しておく、鼻水を吸い込んでも強い炎症を起こしにくくなるため、肺炎の予防になるわけです。

### B) 小児のインフルエンザ菌や肺炎球菌

## 3. 伝染しにくい感染症

### A) 溶連菌

リウマチ熱や糸球体腎炎を起こす可能性のある感染症として恐れられていますが、基本的に抗生物質がよく効き、セフェム系の抗生剤なら5日～7日で完治します。

この菌は、常在菌としてノドに住んでいることも多いため、検査をするたびに陽性反応が出て、何度も感染すると誤解されがちです。インフルエンザと異なり、発症者の兄弟が感染し発症する確率は、一般に信じられているより低いいため、感染者の家族がこぞって予防的治療

これらは常在菌として上気道に住み、上気道炎がこじれると、中耳炎、副鼻腔炎などを起こし、そこから頭蓋内に入り込んで髄膜炎を起こす菌として知られています。病気の予防は、大人の肺炎球菌性肺炎の予防と同様に、お子さん達にワクチンを接種して、上気道の常在菌をより毒性の低い菌に置き換わらせることです。これらも常在菌ですので、他のお子さんとうつつて直接髄膜炎を起こすわけではありません。

### C) 非定型抗酸菌症

結核菌に近い種の細菌で、土の中など生活環境の中のどこにでもいますが、ふつうは人にほとんど感染しません。しかし、結核にかかったことのある人の肺など、弱った肺にはとりつきやすく、慢性的な気管支炎や肺炎を起こすことがあります。結核でも感染した人の10%程度しか発症しませんが、この菌は結核菌よりも毒力が弱いいため、仮に感染してもほとんど発症することはありません。つまり、結核のように人から人にうつることは無いということです。

ただ、いったんかかると結核菌よりも薬が効きにくいいため治療が長引く例がほとんどです。

が必要とは限りません。急性の扁桃炎など、この菌による感染症が疑わしい場合は迅速検査が行われ、陽性なら治療されますが、単なる風邪でたまたま検査して陽性だった場合、常在菌なので、検出されても必ずしも治療の必要はなく、病原菌か常在菌かの見極めが大切です。

### B) 肝炎ウイルスやHIV

どちらも血液を介して感染します。つまり、空気感染や皮膚の接触で感染するわけではないため、守るべきことを守れば、そう簡単には感染しません。気をつけなければならないのは、血液に接触す

る可能性のある医療従事者です。また、配偶者など性的な接触がある場合も同様です。B型肝炎はワクチンで予防することが可能ですので感染の可能性が高い方は

## 4. 伝染しやすい感染症

### インフルエンザ

「流感」とも呼ばれた、高熱の出る風邪です。感染者の咳に含まれる、細かい「飛沫」と呼ばれる、ウイルスを含む水滴を吸い込んで感染します。インフルエンザは感染した人の多くが発症するため、典型的なうつりやすい感染症と言えましょう。

予防上、最も大切なのは、マスクです。流行する時期に人混みに入ったり満員電車に乗る場合、必ずマスクを着用してください。ワクチン接種は重症化の予防に有効ですが、注射をした後、抗体化が上がって免疫が付くまで、2～4週ほどかかるため、流行する前に済ませておきましょう。

1～2日の潜伏期を経て発症した場合、鼻や喉の粘膜からぬぐい液を採って調べる迅速検査を行います。その結果、A型、またはB型のインフルエンザであれば、タミフルや、リレンザ、イナビルなどを使って治療します。

出校、出社ができる目安は、発症後5日かつ解熱後丸2日の自宅安静ののちです。ここまでくれば、人前にでて、周りの人にうつすことはないので大丈夫です。

### 感染性胃腸炎（ノロ、ロタ）

秋から冬にかけて流行するノロウイルスや保育園などで流行するロタウイルス等です。これから、きわめて感染性が高く、ほんの微量、口に入っただけでも胃腸炎を起こします。

具体的な感染源は、トイレや洗面所の取っ手、蛇口、タオルに付いたウイルスで、きちんと手を洗わずに汚染された手で食べて、口に入るパターンです。ウイルスはアルコール消毒に強いいため、次亜塩素酸を含むハイターやミルトンを薄めて消毒し

是非すませておきましょう。C型やHIVはワクチンがないので、血液や体液との接触の機会を減らすしかありません。

ます。ハイターなら吐物などの汚物は50倍に薄めて、便座などを拭く場合は250倍に薄めて使います。蛇口やトイレのノブ、取っ手なども同様です。手にウイルスが付かないように、ゴムやビニール手袋をした上で拭いてください。潜伏期は24～48時間ですが、体内に入るウイルス量が多いと、半日以内に発症することもあります。

治療は整腸剤や消炎鎮痛剤、便がゆるくなり固まってくるような弱い下痢止めなどが用いられます。

症状が軽快しても、その後1週間程度は便にウイルスが排出し、人にうつす可能性があります。ふつうの固さの便になれば飛び散ることもないので、うつす可能性はめっきり減ります。

### 麻疹＞水痘＞流行性耳下腺炎＞風疹

不等号は、感染力の強さを示しています。子供の病気として知られるこれらは、非常に感染力が強く、また、感染すると発症する可能性が高いウイルス性疾患です。

特に麻疹は、免疫をもっていない人がウイルスに接すると、ほぼ100%発症します。

水痘の免疫を持っていない家族の発症率も90%以上です。

流行性耳下腺炎は、感染力は強いものの、感染しても発症しない不顕性感染が3割ほどあります。

風疹は感染力が比較的弱く、感染しても30%が発症しません。しかし、妊婦さんがかかると、胎児に先天性風疹症候群が起こるため、妊娠適齢期の女性は、妊娠する前に予防接種を受けましょう。